

北九州市立枝光台中学校

えだみつだい

校長 戸次 健治

【校訓】

「邂逅」「自律」「創造」

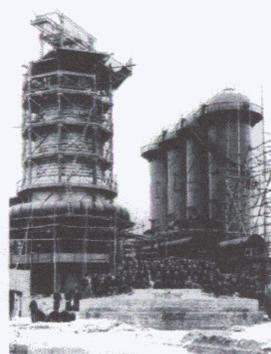
【学校教育目標】

「知・徳・体の調和のとれた心 豊かで、学校や地域を愛し自主自立の精神に満ちた生徒の育成」

卒業する君たちへ



昨年発行された新一万円札に描かれた渋沢栄一は明治から大正にかけて500社近い数の企業の設立に関り「日本資本主義の父」といわれています。その中の一つに1901年創業の八幡製鉄所もあります。渋沢は、当初より製鉄所の設置を希望していた呉（広島県）や門司（福岡県）等のライバル地よりも八幡への設置をすすめていました。ただ八幡にも「洞海湾が浅すぎて大きな船が入らない」という弱点がありました。彼は、これを克服するために多額の出資をして洞海湾を深くする企業の設立にも大きく関わっていました。



渋沢の偉大なところはただ金もうけのために会社をおこしたのではなく、「人のために」「社会のために」を第一に考え多くの企業をおこしたところです。その渋沢の著した本に「論語とそろばん」があります。卒業する君たちにも十分通じる言葉がたくさんあります。いくつか紹介いたします。

- 仕事（勉強）は、いちいち上のものの指示を待っているようではとにかくチャンスを逃しやすい。だから何事も命令や指示を受けてやるようでは、成長はちょっと難しい。
- 仕事（勉強）とは地道に努力をしていけば、おのずと力がついてくるものだが、気をゆるめるとすぐに荒れてしまう。何事も大いなる喜びと楽しみをもって取り組みれば、いかに忙しかろうと、いかにわずらわしかろうとも苦痛を感じるはずもない。
- 「良心」と「思いやりの心」この二つこそ人の歩むべき道であり、社会で生きていくための基礎である。そしてこの二つが、その人が幸運をつかむもとになるものだ。
- とにかく人は誠実にひたすらに努力し、自分の運命を開いていくのが良い。もしそれで失敗したら「力が及ばなかった」とあきらめることだ。逆に成功したら「智慧や力がうまくいかせた」と思えばよい。成功にしろ、失敗にしろ運命にまかせれば良い。こうしてたとえ失敗しても、あくまで勉強、努力を続けていけば、いつかまた幸運に恵まれる時がくる。

3月7日に卒業する第24代枝光台中学校の卒業生の大きな未来に幸多かれとお祈りいたします。

学校運営協議会を開きました



2月27日にまちづくり協議会の役員や市民センター館長を招いて、本校の一年間の教育活動の成果と課題を報告する学校運営協議会を開催しました。本校の課題である学力の定着と不登校対策について報告を行い意見を伺いました。また、アンケートで「学校が好き」と答える生徒の割合が大変多く、今後ともいねいな指導、支援を行うことの大切さについて確認をいたしました。協議会に参加していただいた皆さん、ありがとうございました。